

パーソナリティ心理学

責任者・コーディネータ	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、教養教育センター		
対象学年	1	区分・時間数	講義 15 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

「パーソナリティ personality」は、日本語では「人格」と訳され、その人の“人となり”のことを意味する。心理学において「パーソナリティ」は重要な概念のひとつであり、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、そして精神医学においても中心的な概念として機能している。

本科目では、心理学におけるパーソナリティの概念を整理し、パーソナリティ理解のために有用な心理学の諸理論を取り上げる。またパーソナリティの発達について、家族や社会との関係の影響を含め考える。

本科目の学修を通じ、個々人の個別性を理解し、「自分らしさ」「その人らしさ」を尊重できる態度を身につけることを目指す。

これらの修得のために、双方向的な対話やワークを取り入れ、自分の考えを伝え相手の考えを大事に聞く機会を設け、互いにフィードバックすることを通し、他者尊重的な態度の強化を図る。

・教育成果（アウトカム）

1. パーソナリティ理解のための諸理論を説明できる。
2. パーソナリティ理解を歪める心理的要因について、説明できる。
3. パーソナリティの発達について、精神分析の理論やライフサイクル論をもとに、その形成過程を理解し、説明することができる。
4. 心理検査技法の特徴を学び、パーソナリティのアセスメントについての概要を説明できる。
5. 上記により人間のこころと行動の多様性についての理解を深め、パーソナリティの個人差と個別性を尊重する態度を会得できる。（ディプロマポリシー：1,4,5）

・到達目標（SBO）

1. 類型論と特性論について理解し、特徴を述べることができる。
2. パーソナリティの発達について、ライフサイクル論の観点と、家族の関わりからの観点から説明できる。
3. 青年期におけるアイデンティティ確立の心理発達課題について、説明できる。
4. パーソナリティを理解するために用いられる心理アセスメント技法について学び、それらの方法論の特徴と限界について説明することができる。（☆）
5. パーソナリティの偏りについて理解し、説明することができる。
6. 健康なパーソナリティとはどういうことか、説明できる。
7. 「自分らしさ」「その人らしさ」を理解し、尊重できる。（☆,6,49）
8. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）（34）
9. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）（45）
10. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）（46）

- 11.患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。(50)
 12.患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)(51)
 13.自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)(55)

・ 講義日程

【講義】

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/7	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>イントロダクション：パーソナリティとは【双方向授業】【ICT(Mentimeter, WebClass)】</p> <p>1.我々の普段のパーソナリティ理解の仕方をふりかえり、述べるができる。 2.パーソナリティを理解する際に生じる歪みについて、説明できる。 3.血液型と性格の関連について、科学的知見を述べるができる。 4.血液型性格判断に作用する認知の錯覚現象について、説明できる。</p> <p>事前学修：血液型と性格の関連について記載されている記事をインターネットで調べる。スタナビの「ピブリオバトル」の箇所を読む。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料と教科書 22～24 ページを読み復習する。</p>
9/14	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>自分らしいプレゼンテーションとは (1)、人格 personality と性格 character 【双方向授業】【ICT(WebClass)】</p> <p>1.与えられた課題について、プレゼンテーション資料を作成することができる。 2.人格と性格の定義の違いについて、説明できる。 3.気質について、説明できる。</p> <p>事前学修：教科書 9～21 ページを読む。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。</p>
9/21	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>自分らしいプレゼンテーションとは (2)、類型論と特性論【双方向授業】 【ICT(WebClass)】</p> <p>1.プレゼンテーションに対し、改善点を指摘することができる。 2.自身のプレゼンテーションに表れる自</p>

					<p>分らしさについてふりかえり、述べることができる。</p> <p>3.類型論の特徴について、説明できる。</p> <p>4.特性論の特徴について、説明できる。</p> <p>5.Big Five について、説明できる。</p> <p>事前学修：教科書 24～32 ページを読む。</p> <p>事後学修：プレゼンテーションに関するふりかえりワークに取り組む。WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。</p>
9/28	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>ビブリオバトル クラスマッチ【グループワーク】【プレゼンテーション】</p> <p>1.自分の選んだ本について、その魅力をプレゼンテーションすることができる。</p> <p>2.その本をより深く理解するための質問をすることができる。</p> <p>3.発表、質疑応答、ジャッジに積極的に参加することを通し、今後の自身の発表への改善点を挙げるができる。</p> <p>事前学修：My Biblio を選び、期日までにコンテンツシートとシナリオシートを作成し、提出する。スタナビの「ビブリオバトル」の箇所を読む。</p> <p>事後学修：今回のプレゼンテーションに関する改善点をふりかえり、WebClass から回答する。</p>
10/19	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>パーソナリティの発達【双方向授業】 【ICT(Mentimeter, WebClass)】</p> <p>1.精神分析の構造論における自我について、説明できる。</p> <p>2.精神分析の発達理論について、説明できる。</p> <p>3.乳幼児の認知発達について、説明できる。</p> <p>4.Erikson,E.H.のライフサイクル論の 8 つの発達段階と、各発達段階における発達課題と心理社会的危機について、説明できる。</p> <p>事前学修：教科書 32～39 ページを読む。</p> <p>事後学修：講義資料と教科書 125～141 ページを読み復習する。</p> <p>形成的評価：WebClass による「理解度チェック」に取り組む、結果のフィードバックを受ける。</p>

10/26	木	2	教養教育センター 心理学・行動科学分野	中島 淳子 非常勤講師 藤澤 美穂 講師	<p>子どもの発達と家族のかかわり</p> <p>1.子どもの社会性発達を理解し、子どもの発達における愛着の重要性について、述べることができる。</p> <p>2.子どもとその家族への関わりが必要であることを理解し、多職種連携での支援の重要性について、説明できる。</p> <p>事前学修：子どもの社会性発達について調べておく。</p> <p>事後学修：WebClassでの課題に取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p>
11/2	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>パーソナリティの理解：心理アセスメント【心理検査受検・スコアリング演習】</p> <p>1.アセスメントにあたって用いられる心理検査について、特に質問紙法の概要を述べることができる。</p> <p>2.心理検査への自身の回答をスコアリングし、解釈することができる。</p> <p>事前学修：教科書41～57ページを読む。</p> <p>事後学修：WebClassでの課題に取り組み、結果のフィードバックを受ける。心理検査によるアセスメントについて、復習する。</p>
11/9	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>健康なパーソナリティと、パーソナリティの偏りについて考える【双方向授業】 【ICT(Mentimeter, WebClass)】</p> <p>1.個人と環境の相互作用のもとで確立するパーソナリティの「健康さ」について、これまでに示されている知見に基づき、要点を述べるができる。</p> <p>2.パーソナリティの偏りについて、平均基準と価値基準の観点から説明できる。</p> <p>3.パーソナリティ障害の特徴について、述べるができる。</p> <p>事前学修：パーソナリティに影響を及ぼすと考えられる出来事や社会状況について、インターネットで調べ、持参する。</p> <p>事後学修：WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。</p>
11/16	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>ビブリオバトル ファイナルマッチ【プレゼンテーション】</p> <p>1.ビブリオバトルを行うことで、幅広い書籍情報を共有できる。</p>

					<p>2.読みたい作品、ジャンル、作家、テーマ等について明示できる。</p> <p>3.発表、質疑応答、ジャッジに積極的に参加することを通し、今後の自身の発表への改善点を挙げるができる。</p> <p>事前学修：スタナビの「ビブリオバトル」の箇所を読む。</p> <p>事後学修：今後の自身のプレゼンテーションに活かせることをまとめておく。</p>
11/30	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>自分らしさ、その人らしさの尊重のために【双方向授業】</p> <p>【ICT(Mentimeter,WebClass)】</p> <p>1.Flankl.V.E.の人格観が確立された経緯を理解し、ポイントを説明できる。</p> <p>2.ポジティブ心理学における well-being について学び、自分なりの考察を述べることができる。</p> <p>3.自分らしさを大事にしながら相手を尊重するとはどういうことか、自分なりの考えを述べるができる。</p> <p>事前学修：教科書 221～235 ページを読む。</p> <p>事後学修：ふりかえりワークに取り組む。WebClass での確認テストに取り組む、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	改訂新版 人格心理学	大山泰宏	放送大学教育振興会	2015
参	はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険—	小塩真司	ミネルヴァ書房	2010

・成績評価方法

総括評価：ふりかえりワーク（9/21, 11/30）と小課題（9/28, 10/26, 11/2）の取り組み内容を 30%、期末課題の評価を 30%、確認テスト（5 回実施）の成績を 20%、ビブリオバトルに関連する取り組みを 20%として評価する。ふりかえりワーク・小課題・期末課題への取り組みは、提出（入力）された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「課題評価基準」に従い採点する。確認テストは MCQ：多肢選択式問題を WebClass から出題する。ビブリオバトルへの取り組みはコンテンツシート・シナリオシートの内容、クラスマッチでのピア評価の内容および質疑応答への態度を対象とし評価する。

形成的評価：5回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。また WebClass によるワークやコメント入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。

事前学修：講義内容の確認をした上で、トピックに関連する事項をインターネットや図書館で検索し、問題点を抽出しておくこと。最低 30 分以上を要する。

事後学修：講義資料を確認し、講義内容をふりかえり、自分なりにまとめておく。興味をもった箇所やわからなかった箇所を図書館の文献などで調べること。最低 30 分以上を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれでも参加可能である。

期末課題評価後に講評・解説等を WebClass にておこなう。

【その他】

・一部「医療と法律」「人間関係論」「医療と物語」と横断的にビブリオバトルをおこなう。

・提出を求める課題内容については WebClass 上に詳細に提示する。

・学生からの授業に対する質問・意見については、WebClass メッセージより随時受け付ける。

・授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

・ビブリオバトルについては、コンテンツシート・シナリオシートの提出を求める。ビブリオバトルではグループでのプレゼンテーションを予定しているが、感染予防対策を徹底し、状況に応じて方法を適宜変更することがある。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD(BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成